

図1-1 名古屋医療センター定期通院者の居住地域

名古屋医療センターに定期通院中のHIV陽性者について、東海ブロック4県の2km四方毎の居住者数を図示する。愛知県全域のみならず、岐阜、三重からも多くの通院者がある。距離としては病院所在地から半径50km、鉄道や自家用車により1時間程度で通院可能な地域が名古屋医療センターの医療圏となる。

東海ブロック二次医療圏別定期通院者数

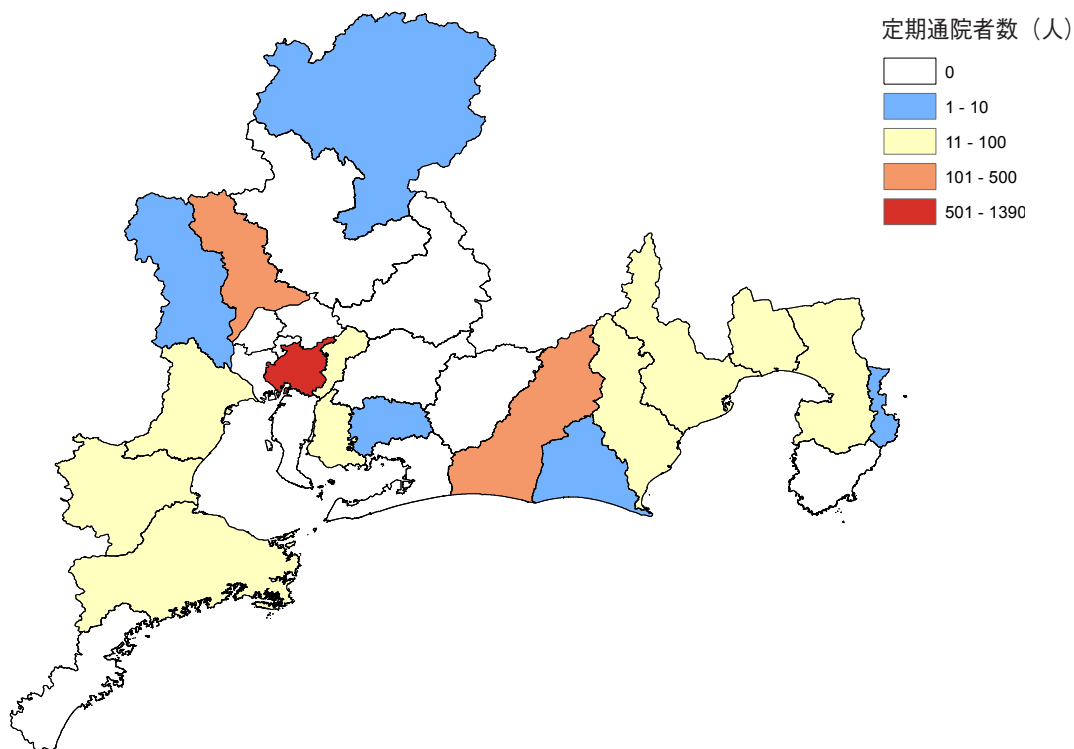


図1-2 東海ブロックの二次医療圏内毎の拠点病院の定期通院者総数

愛知県全域のほとんど、岐阜県西濃・東濃地域及び三重県北勢地域の多くのHIV陽性者は名古屋医療センターに通院している。岐阜県岐阜地域は岐阜大学医学部附属病院、静岡県西部は浜松医療センターに通院者が集中している。一方、三重県全地域、静岡県中部・東部地域ではHIV陽性者の中核拠点病院への集積は見られない。

東海ブロック二次医療圏別拠点病院数

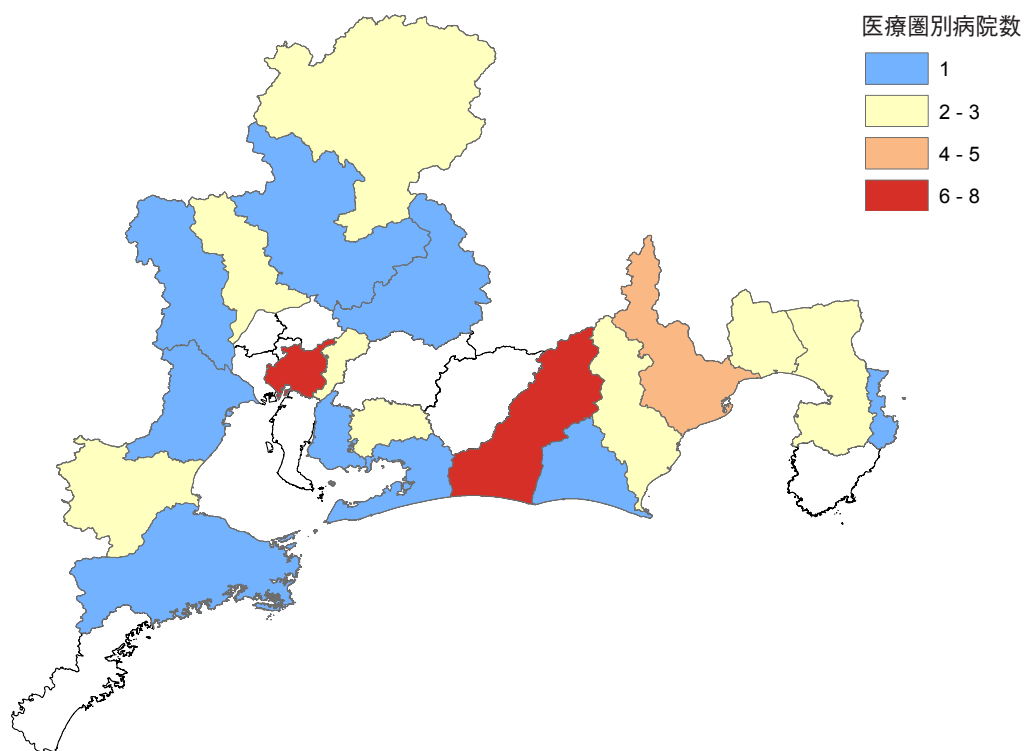


図1-3 東海ブロックの二次医療圏別の拠点病院数

定期通院者数の多い医療圏には多くの拠点病院が設置されている。また、各県の中核拠点病院のある二次医療圏にも複数の拠点病院が設置されている。愛知県の名古屋市周辺の二次医療圏には拠点病院が設置されていない。

東海ブロック二次医療圏別スコア平均値

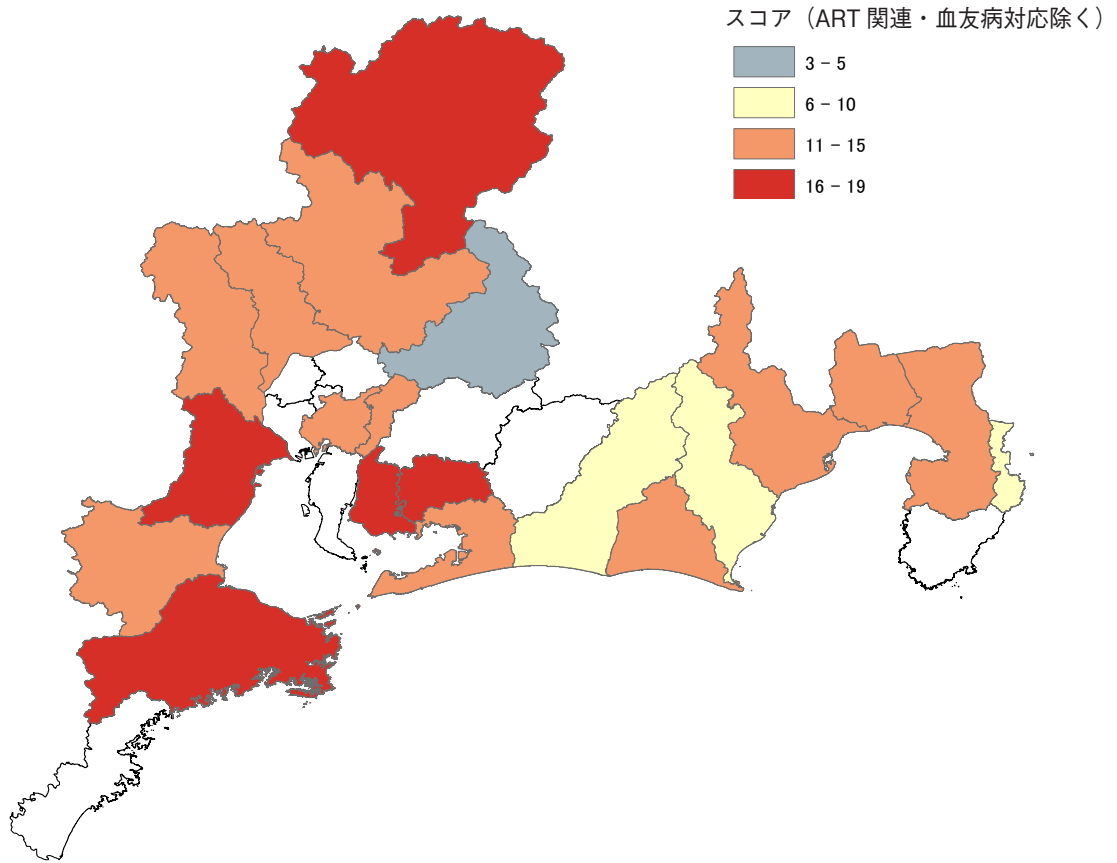


図1-4 東海ブロックの二次医療圏内の全拠点病院のスコアの平均値

通院者が特定の医療機関に集中している二次医療圏では、他の医療機関のスコアが低く平均値としては低い。一方、定期通院者の少ない地域では、二次医療圏内の拠点病院数は1施設ないし少数で、その全てがほとんどの医療課題に対応できることから高いスコア平均を示す。

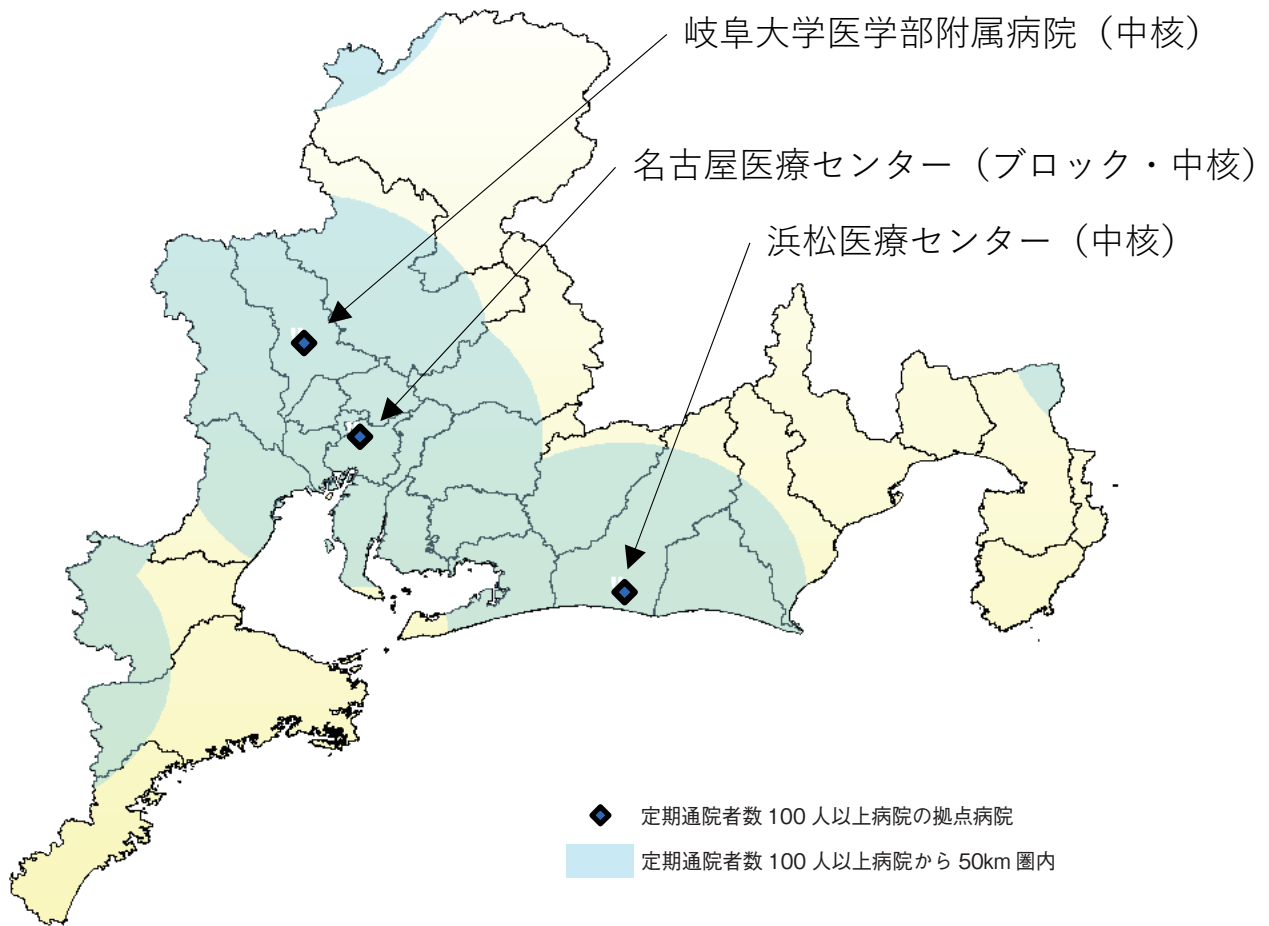


図1-5 東海ブロックの100人以上の定期通院者がいる病院の診療圏

岐阜大学医学部附属病院、名古屋医療センター及び浜松医療センターの所在地から半径50kmの範囲を示す。東海ブロックにおけるHIV陽性者が多く居住する地域では、この3施設により抗HIV療法が提供されている。